

尚和会会報

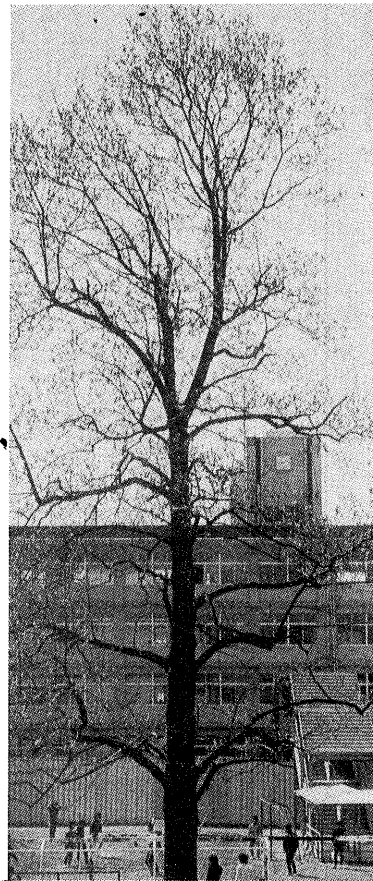
発行所 尚和会
 (桜塚高等学校同窓会)
 発行責任者 木村益子
 編集責任者 山本 孟

四十周年を祝って

尚和会会長 木村益子

早いもので母校もいま創立四十周年、その母校も近代設備、そして知識と豊かな人間性を育てる教育へと、ここ数年の進展は目をみはるばかりで、かかる時期に祝賀会を催されますことは、全く御同慶にたえません。

さて尚和会も、この記念すべき事業に参加、学校・PTAと共に実行委員会を設置して、式典、祝賀行事、記念誌発行等の行事を行うと共に、



五十二年十一月九日(水) 創立四十周年を祝う

併、52年度総会を同会場で12時半より行う

豊中市民会館にて

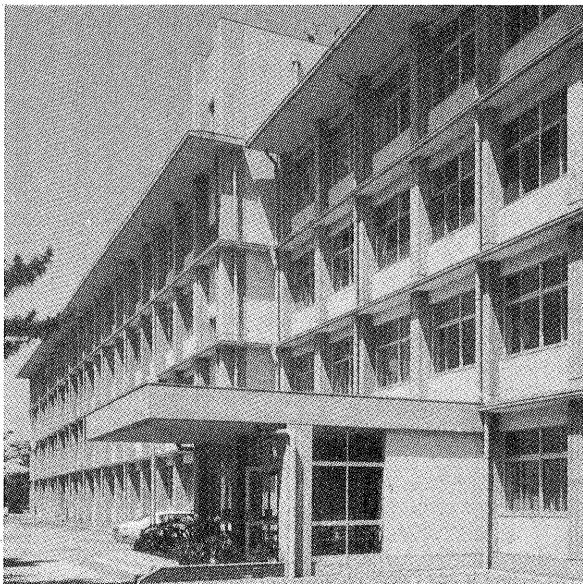
少し先になりますが、名簿の発行、木造校舎のシンボルであった「三つの鐘」の鐘樓を庭園に再建することを決め、広く愛校心にうつつたえて祝賀募金にふみきつた次第です。幸い御同意・協力を得まして目標近くの寄附金をいただきましたこと、感謝にたえません。今少しの目標をモットーに無事諸行事が終了出来ますことを念願して居ります。さて卒業生総数も一万七千

百二十一人と大世帯、各人各様で各界で中堅として活躍中、まだ同窓会としては、弱体といわれつつも迎う五十周年には、さすが豊中高女・桜塚高校と、よろこばれる様、ありたいものです。

同期会には関心があっても、同窓会なんてとお考えのむきもある様ですが、卒業生のタテの動向や、母校及び諸先生方の現状を知る事も大事な事と思えますので、この度の祝賀のエポックを通して、新旧の巾広い交友のうちに、未来への希望を新にしたいと思えます。母校おめでとう

創立40周年記念行事式典次第催し物プログラム

開始時刻	内 容	開始時刻	内 容
10:00	開 幕		
	1・2年生音楽履修生による「戴冠ミサ」	11:15	6. 閉式の辞
10:15	記念式典式次第		休 憩
	1. 開式の辞	11:25	催し物プログラム
	2. 校歌斉唱		箏 曲 部
	3. 校長式辞	11:40	3年生音楽履修生による「水のいのち」
	4. 祝 辞	11:50	P.T.A代表(尾形米子さん) 舞踊「新曲浦島」
	大阪府教育委員会	12:05	昼 食
	大阪府 知事	12:30	尚和会総会(会場にて)
	大阪府 議会	13:00	演劇部「夢見る乙女の話」
	旧職員代表	13:50	休 憩
	PTA会長	14:00	音楽部「マリちゃんの歩いた夢」
	尚和会会長	14:15	奇 術 部
	在校生代表	14:30	落語研究部
	祝電披露	14:50	フォークソング研究部
	5. 創立40周年記念行事実行委員長 謝辞	15:10	終 了



収 入
支 出

特 (

祝

御結婚
創業50

御挨拶

尚和会の皆様へ

学校長 山本俊雄



まことに失礼ではございますが紙上を借りまして、一言御挨拶申し上げます。

四月一日づけで、本校校長を拝命しました。輝かしい歴史に飾られた桜塚高等学校に、名校長山本弘先生のおとを受け、身のひきしまる思いでございます。浅学非才の身で、その責を果し得るか、甚だ心もとなく存じておりますが、全力を尽して頑張るつもりでありますので、何とぞ、前校長同様、あたたかい御支援を賜りますようお願い申し上げます。

前校長をはじめ皆様方の御努力により、鉄筋四階建二棟の立派な新校舎が完成し、中

庭には、先月多くの庭木を移植し、面目を一新いたしました。

今後、旧校舎を撤去し、その跡を運動場にする予定にしております。尚、食堂及び会館の建設、プール及びコート

の設置、校門、塀の整備、新校舎周辺の植樹等々、未だ、なすべきことが多く残っております。

これら先輩諸兄姉の御援助のもとに一日も早く完成し、生徒等が、思うぞんぶんに学習に励みクラブ活動に打込めるよう努力したいと決心しております。

今年秋には、本校創立四十年を迎え、記念行事が予定されております。今後共、本校の発展のために会員各位の絶大な御忠告と御援助を賜りますようお願い申し上げます。

ゆく春

前校長 山本弘



本年は殊のほかの厳しい冬のあと、足元から鳥の立つような、春の急な訪れで、あつという間に花が開き、あつという間に散りはてて、早や紅葉の季節を迎えました。

まこと、時の選りのこの非情の情の流麗さには、ただ天晴れと舌を巻いて感嘆するばかりはない、あわれ人間のかなしさでございます。まして、小生にとりましては、今年の桜は一しほの趣で、一味変わった

春でございます。去る三月二十一日に還暦をむかえ、三月末を以て職を退きました。省みますと四十七年の年の暮れから四年四ヶ月、短い桜塚生活ではございましたが、私にとりましては、公生活の最後の職場でもあり、責任者として御世話になった関係もあり、いろいろ懐しい思い出にみちたあけくれでございます。伊勢物語の巻末に業平の「つひに行く道とはかねて聞きしを」の一首がありますが、正直いって、今日あることはかねてわかっていながら、さてその時にのぞむと、一種異様な感動に揺れます。人間が出ていないんでしようね。これといつて何のなすこと

今後も桜塚と共に

前国語科教諭 野曾原 斌

紅葉をささそう秋風もまことに心地よい季節となりました。同窓の皆様、さぞかし御健勝

塚、森両先生は全日制へおかわりになりました。校舎の改築も第四期工事が

終了の食堂の建設、プールや運動場の整備等が残されております。今年三月卒業された人々は御存知ですが、既に使用されてきた理科関係の特別教室の外に定時制の職員室、自治会執行部室、家庭科教室、商業教室、視聴覚教室等の新しい立派な部屋を昨年末から使用して楽しい学校生活が開

在籍生諸君は魅力ある学校生活といふことを要望されま

す。これはなかなかむつかしいことなのですが、働きなが

ら学ぶ生徒諸君の四ヶ年間の高校生活が生涯の輝かしい一時期として印象づけられるように私達教師集団もがんばっているわけで、はりきり屋の若い先生も多いのでその成果も年毎にあがっているものと確信しております。

もなく、ただ皆様の御厚情にすがって、大してボロも出さずにこの年月を送れたことがせめてもの慰めで、御世話になった方々への感謝を改めて申上げたいと思ひます。

最終、校舎の改築にかかわりました。最後の付帯工事の完成を見ずに去るのは、いささか心残りもありませんが、四十周年行事をこの秋にひかえての件と共に、これらは又、新しい校長先生が新しい構想のもとに、皆様と共に美しく開花させて戴くのがむしろ楽しみで、いっそすがすがしくお別れ出来ませう。

有志の方々の大きい御尽力による学徒動員記録「ほむら野に立つ」の刊行、遺族年金受給への並々ならぬ御努力、正面玄関を桜塚らしく飾って

さて私事去る三月三十一日をもって大阪府立桜塚高等学校を退職いたしました。思い返せば、昭和二年身を教職に投じてからはや五十年、その大半の二十九年間を同校で過ごさせていただきました。その間大過なく今日に至り得ましたのは、これまで受けました諸先生方の手厚い御誘掖と心からなる御芳情とによるのは勿論ですが、その背後には卒業生の皆様の誠に御理解ある御声援をいただいた賜物であると思ひまして厚く感謝申し上げます。現在是非常勤講師として週四日出勤致しております。

は、生徒諸君の物の考え方が随分とかわってまいりました。願わくは現在の生徒諸君が大いに勉勵努力して、立派に先輩諸君の後に続くことの出来る人間として生長してくださることを心から願ひたいしております。

定時制の近況

中島 清



定時制の近況をお知らせしましょう。まず山本弘校長先

生が退職され、新たに山本俊雄先生を校長にお迎えしました。同じ山本先生ですね。それから田中一善先生、肥塚敏彰先生、森節雄先生が転退職されました。田中先生には永らくお世話になったわけで、古い回の卒業生でも知らない人はないと思いますが、このたび御退職になりました。肥

- 期)川口起美雄 四千元 (豊女一)明壁綾子 藤田澄子 (豊女三)安吉和工(豊)

寺門良子 辻村靖子 宮崎嘉重郎 立石喜久子 春木和枝 上元繁 島田操 男網泰子 諏訪和正 小前矩子 木村幸

- り子 (高二七期) 畑山博子 木下和久 八木智子 荻原真二 奥村信一 (高二八期) 荒井恵子 大森達也

史 堀暢代 (定時制) 仁木在久 中前妙子 (豊女八) 木方嘉子 (高二六期) 松下和弘

- 子 岸川千代子 中根宣子 平松良子 北江淑 辻橋敏子 前田澄子 (豊女二) 峯田道子 川上幸子 (豊女三) 梅

母校に赴任して

末筆ながら皆様の御自愛と御発展をお祈りいたしまして欄筆いたします。

- 子 岸川千代子 中根宣子 平松良子 北江淑 辻橋敏子 前田澄子 (豊女二) 峯田道子 川上幸子 (豊女三) 梅

服部育子 近藤栄子 香取貞子
 子 内田章子 大田昌子 林百合子 浦靖子 大空明子 川尾勝美 (高五期) 山本璋

(高十四期) 太西真司 星野祐子 久保田敏子 金井伴子
 南寿子 石田安孝 光谷富美子 入江良征 安田忠昭 西

田洋子 村田秀二 小泉はるみ 信貴鈴子 (高二十二期)
 中里裕美 仲岡清 西木ひとみ 長谷川和代 荒木次男

陽子 井関一夫 八田雅章 乾弘志 横山富久 沢ひろみ
 渡辺佳代子 三反畑保 八木悟 尾島多佳子 木村万里子

(定時制) 中川喜美子 大畑文雄 辻本順子 府上恵二
 吉本喜代子 福島和二郎 中務誠一 古川弘 西村乙代

門啓一 (高八期) 沖弘子 五千円
 (豊女三) 三野倭文子 (高四期) 和田一洋 (高二十二



鐘のひびき

琴の音によせて

箏曲部師範 菊塚敏子

昭和十二年府立豊中高等女学校(府立十四高等女学校)創立と共に私は初代近藤校長先生の御奨励御指示のもとに箏曲部教師として菊塚千楽師(主人)と共に小川文字さん(卒業生の母)と三人して當時式百人余りの生徒にコロリンとたのしく二十一面(寄附させて頂きました)の御琴で基礎指導をいたしました。たしか十二年八月の夏休みから初めました。髪かたちはおか

つばで長さもきまってるましてそれはそれは清純そのものの典型的でない生徒ばかりに思われます。評判のいい憧れの女学校でした。又どの教室もきれいでお掃除もとても行届いておりました。又生徒も音楽の理解の早い人が多くて仲々皆よく弾いて筋のいい人が多かった様に思われます。この点では現在でも同じでなやんだ事もなくいつつもよく弾いて筋も理解もよくて

御稽古のしがひのある生徒たちでした。何代か校長先生が変られて幾度か胸の痛みを覚えた事でせう。又卒業生も、府立だからとて一切個人教授を遠慮してゐました。松浦校長先生の時に一言卒業生になる人にとても筋のいい人がるて申しました。校長先生は、そんな生徒がゐればどんなすすめて下さい、いいですよ、との事で、それから筋のいい生徒は、少しすすめました。ほんとうにうれいでした。そしてその生徒たちの中には第一線に活躍してゐる人もゐます。たのしい限りとするので居ります。私も六十四才といふ年令になりまして二十四才より九四十年

間桜塚高校生にお琴を指導してまゐりました。折には又心のもち方とか、又言葉のつかい方とかを共に勉強しませうと、たのしく又かなしい日もありました。私の一生は桜塚と共にと云ふ感じで或は結婚のお世話とか又就職のおせわとかといろいろと思ひ出多い数々があります。この欄を四十年の思ひ出として、つたない文章になりましたが、一昨年より千楽師は病床に居りますので時折学校の指導は卒業生や又、娘(菊塚千秋)にさせて居ります。どうぞ卒業生の皆様が学生の箏曲部を大事にして下さいませ。

茶道部は茶道の真の相を学び、それを実践するクラブです。お互いに相手を理解し、敬い心を通わせる精神、美しいものを美しいとみる目、臨機応変の機敏さ、むだをしない、心構え、これらを身につけるために、おじぎの仕方から勉強しています。それにお菓子の食べられることもちよつと魅力なのです。

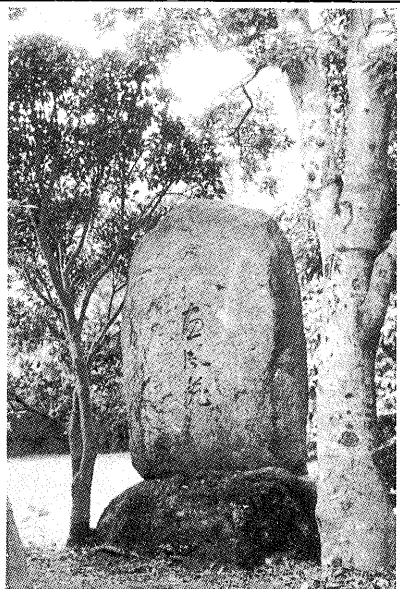
クラブの主な年中行事は、藤の花の咲き揃う頃、新入生歓迎の野点。夏休み前半には禅寺での二泊三日の合宿。早朝坐禅をくんで、静かな静かな一時をもち

夜には楽しい納涼茶会を。浴衣姿の先輩が大変きれいに見えます。八月後半の集中練習のあと二十八日には大徳寺の利休忌法要に参加し、茶の歴史をその眼にその肌感じに感じて、部員一同最も緊張して迎える瞬間です。日頃の修練のたまものか、わが桜塚高校茶道部員の立派な態度は、先輩からずつと受けつがれてきた伝統になりました。秋の文化祭は賑やかな大寄せ茶会。そしてめでたく三年生の卒業の頃、他校との交流茶会を持

て、立派な和室を造って頂いたことを感謝し、できるだけ大切に使用して美しい姿のままで、後輩に譲り渡してゆこうと思います。今年には待望の男子部員が誕生しました。これからも茶道部の伝統を守りつづけ、その発展を期待し活動していきたいと思っています。



華の歩み 茶道部一同
 昭和十五年頃かと思いが、初めて大阪府立豊中高女に華道部が創設され、故足立豊翠先生が池の坊正流を流派とする華道の指導を始められました。約十年余り後、諸般の事情により流派を小原流に変更し、以後昭和五十二年六月まで、約四十年近く華道部の活動に力を貸して下さいました。しかし、全く突然のことですが、この六月におなくなりになりました。心からお悔み申し上げます。左記の方々、在学中から又は卒業後現在まで華道を続けておられます。藤本 久子(旧姓棟近)・井崎美奈子・住野 昭子・細川美栄子(旧姓笹部)・大畑賀代子・山下 洋子・大平 之子(旧姓佐久間)・田中るり子・田中万里子・長田喜美子・高橋 恭子・足立礼子
 現在は、豊翠先生の御令嬢の足立礼子(豊訓)先生に指導をいただいております。



後輩への励ましを

定時制家庭科教諭 馬場文字

定時制卒業生の皆さん、お元気ですか。若さとは言え学業と職業を両立させ、幾多の苦難をのり越えて卒業された皆さんは、在学中に培われた情熱と実行力を活用して、それぞれの分野で大いに活躍されていることと思います。職員間では井関先生と共に最古参になつてしまつた私も、老眼鏡をかけて若い先生方と共に、頑張っています。

本校創立四十周年 併せて定時制発足三十周年と、ことは誠にめでたい年であり、新校舎もすつかり完成し、皆さんにとつて(いや、私にとつてはもつともつと)想い出の深い赤屋根の木造校舎もこの夏休みにすつかり撤去され、庭の樹々は移植されて今、玄関奥で、昔の恩露園のおもかげをしのばせてくれています。一口に六十年と云いますが、色もかえりみますと、色

しでもけがすまいと、新しい施設設備で勉学に、クラブ活動にと、精一杯頑張つています。皆さんお忙しいでしょうが暇を見つけて是非夜空に輝く母校をおたずねください。四階から見渡す夜景はまた格別ですし、過ぎし日の想い出話に花を咲かせたり、後輩達にも色々指導・助言していただければ誠に幸いです。終りに皆様方の御多幸を心からお祈り申し上げます。

尚和会への道

片山勝重

私は定時制の26期の卒業生の一人です。在学中では尚和会の事は何も知りませんでした。卒業の後は案内をたびたびいただき、役員の方々に混じり出席していくうちに今では考えている意見も出せる様になりました。ついでには、この文を書こうと思つていたので毎回出席する方々と云つても仕事のわりには、ほんの少しの人数です。そして、ぼくの心の中ではないし、この少数の役員、そして数人の協力者の人達が何らかの形で姿を消した時、尚和会活動が停止するのでは? しかし、それは桜塚高の門をくぐつた人達が

映する定時制はここ数年、生徒数が減少し、職場の色々な制約をうけてとすれば覇気を失いそうになるのを、先輩達の築かれた多くの業績を少なうもないのです。どうかこの会報をお読みの後は、役員の方

落研

今昔物語

昭和三十三年、当時二年生であつた十八期生三名と、一年生であつた十九期生一名の四名が、文化祭で落語をしようと集まりました。が、クラブとして、以後活動するつもりはなかつたのです。その時の文化祭の高座は教卓にカーテンを敷いたもので、先生方からお叱りを受けるのはと心配でしたが、これが意外と評判になり、このことは他校でも評判になりました。

あくる昭和三十三年、三年生は受験で活動できず、残つた十九期生(山城彰。現在、桂春之助として上方落語界で活躍中)が、新たに同好の士を募つたところ、十名程集まつて、この時に、クラブとしての落研(らつっけん)と読んで下さい)が誕生しました。今でこそ、たいいてい高校に落語研究会が有りますが、当時の高校の落研というのは珍らしく、他校からの問い合わせが多数有り、本校の落研が、その後の高校落語ブームの口火を切つたと自負しています。

また、当時女性部員がその半数を占め、その中には実際に落語を演じた人もあり、当時女性が落語を演じるのは、これまた珍らしいことでした。文化祭での高座のセットも、ふすまをバックに置いたりして、しだいに工夫が加えられ、会場の講堂や音楽室は、大変な大入りでした。

に落語を演じた人もあり、当時女性が落語を演じるのは、これまた珍らしいことでした。文化祭での高座のセットも、ふすまをバックに置いたりして、しだいに工夫が加えられ、会場の講堂や音楽室は、大変な大入りでした。

その後、同好会として、順調に発展し、特に、落語に関する資料や、高座のセットは、驚く程充実し、文化祭では、これが教室かと思つ程、よく寄席の雰囲気が出せるようになりしました。

昭和四十二年頃から「素人名人会」に出場する部員が出始め、中には名人賞を獲得する芸達者な者もいました。その賞金がクラブにすこしでも入れば、クラブの台所にも余裕があつたのに、そういう奇特な心の持ち主は落研にはいりません。会計は常に火の車。そこで予算のおりる部にしよう

いう話が何度も出ましたが、いろんな制約が煩わしくて、ずつと同好会のままでしたが、昭和五十年、ついに貧しさに負けて、部となり現在に至っています。

現在落研は、一、二年生が八名週四日、落語に対する知識を深め落語を通じて上方の歴史、芸能の一端に触れるべく、活動しています。(実は、そんなに大層なものではないのですが)活動の内容はネタの練習はもちろん、資料を読んだり、実際の高座を観たり、また文化祭前には、あの独特の寄席文字の練習もしています。学外の活動も、あちこちの公民館などに出させて頂いて、拙い内容ながら喜んで頂いているようです。

最後に、未来の落研に対する抱負ですが、現在テープで賄つておられるお囃子を、ゆくゆくは実際に三味線や太鼓を使つてやうにしたいということと、現在のようにマスコミ化されてゆがめられた落語でなく、本来の姿に立ち返つた、しつかりと地についた落語を研究していこうと考えています。また、OBとのつながりを深めてゆきたいという希望もあります。

創立40周年記念募金状況

昭和52年10月10日現在

金二百九十五万二千八百六十

- 樽谷君子 (豊女三) 松尾郁子
- 水谷美幸 吉沢幸子 滝せつ子 (豊女四) 鳴川道子
- 前田康子 木本裕子 (豊女)

- 植松喜子 横谷春子 丹田寧子
- 福田せつ 松井信子 滝沢淑子
- 東野千鶴子 内藤純子 本多美智子 安原愛子

- 西原成子 武田貞子 (豊女四) 馬場恵美子 宮本弘子
- 河村令子 梶山季子 角山照子 南園 守分康子 浜田尚

- 郡千代 毛利克子 須藤和子
- 前沢智恵子 長山千加 指尾千枝
- 堀川隆子 山中暢子 上野やよい 早野久美子 佐

ハンドボール部OG 青春の日 藤井妙子

「妙子！ 早よロング打って！」と今は今は亡き藤井典子さんが裸足で叫んだ。日体大（東京代表）に一点リードされ、どんなに攻めても返せないフォワード（攻撃側）、頼みとする古川智子（現楠）キャプテンは、相手方にベツタリとマークされ、他の者もくたくたの様子、私は練習の時と同じ様にハーフラインから思い切り相手側のゴールをねらい、45の角度で投げた。毎日の激しい練習、日曜、祭日

はもちろん雨の日は体育館と一日も休まず励んで来た仲間、薄暗くなった運動場に「おいも」をふかして持って来て下さった用務員のおじさん、国体出場がきまってるから食事の悪かった当時に色々援助して下さった先生、先輩、友達、そんな皆にかこまれた私達が始めての大きな対外試合が第一回の国民体育大会の大阪府代表、場所は西宮の芝生が一面の素ばらしいグラウンド、スタンドには、豊中高女の先生、生徒がいっぱい、同時出場の大阪代表、豊中中学校、大阪歯科大、オール関西も一諸

ハンドボール部

ハンドボール部は、我校と同じく、四十周年を迎える、たいへん伝統あるクラブです。又、女子は、第一回の国体で優勝しています。

現在は、先生からから、引き継いで、島崎先生、刀瀬先生に、御指導いただいています。

男子は、28期生が2名、29期生が2名と、部員不足に悩んでいましたが、現在、三年が六名、二年三名、一年四名で、去年の新人戦今年の高校総体で、ベスト16にはいりました。

女子も、28期生が2名、29期生が3名、現在、三年が四名、二年四名、一年四名と、部員は少ないのですが、去年の新人戦、今年のインター杯一次予選で、第三位に入賞して、近畿大会出場がきまる試

になつての声援、それが「ドツ」とわいた時、相手ゴールキーパーの真中上に「スポツ」と同点の球が落ちた。後は力を盛り返した仲間によって勝ち越したの一点を難なくあげ、優勝出来たのである。その間「ヤキモキ」してグラウンドを行ったり来たりして居られた山口ウメ子先生も今は亡く本当に残念ではあります。初代の中村先生始め、佐野先生、山田計先生、島崎先生と御健在で、ハンドボール部の総会にはお逢い出来るのを楽しみにして居ります。

剣道部

OBGG会発足

今年、剣道部初代主将・菊川富夫氏（第21期生）が中心となつて剣道部OB・G会の組織づくりが行われました。年会費千円の納入で、主として後輩現役の部活動を援助し、部の発展をはかります。

今年度早速、剣道部旗が贈られ、後輩を大いに感激させました。夏にOB・G会の初会合を持ちましたが、第二回目の会合を11月6日（日）に開きます。この日、北摂学校剣道大会が桜塚高校で催されま

す。後輩現役を応援がてら、多数参加して下さい。後輩の試合が終わる次第、尚和会館でなごやかにOB・G会を開き懇談いたします。

なお、各期の主将を中心に横の連絡を密にし、今後さらにOB・G会を発展させたいものです。



女子ハンドボール部全盛期

山屋OBの現況

ハイキング部からスタートした山岳部は、故山口ウメ子先生ご健在な頃頃のワンド・フォゲルの「ひよこ」的形態から、16、18期生の本格的な山岳部への成長を経て、その後「シゴキ」からの逃避eticの問題を含めて、山岳部の存在自体にまで、問題は深刻になって居るようです。

しかし、一昨年に「桜塚高校山岳部OB会」という正式名称をもつOB会が具体化し、会則まで作成し、年一回の総会（山岳部である以上、総会は、山の中で開催です）も継続しております。OB会が具体化する以前までも、そこは同じ目的で同じ苦労をした連中の集まりですから、タテ、ヨコのつながりは保たれ、一部では相当の親密度がありましたが、OB会という核が具

体化されるにおよび、会長の後藤敬直先生を中心にした輪がひとまわりもふたまわりも大きくなり、且つ深くかつたような気がいたします。

母校創立40周年記念行事の一端として、現役とOBの共同製作になる部報の発行と、記念登山が予定されております。この記念登山がどういう形のもので実現されるに於いても、「旧山岳部」の面目にかけて出すことは、山男の意地にかけても……は少し時代がかつて居るでしょうか。

でも、この言葉、そのものなので……自由！言葉では証明できない言葉だと思つて、「ホリデイ」以来定着しつつある演劇部の取りくむテーマ。今年もまた違った方面ならせめてみました。自由と束縛ある女子高生の場合、身近にこそ真剣に話しているものを、6人が真剣に話していました。どの様な舞台になるか、ぜひ文化祭にはおいで下さい。未熟な私達をご指導いただければ幸いです。

旧ラグビー部員に告ぐ!!

今回、O・Bクラブ「恵風ラグー」発足
入会希望者は左記へ
大阪市北区西寺町1-46谷口探成

演劇部

秋の香りを一足早く！
こんにちは！ 現役部員6人からの、ささやかなるメッセージ。

もう9月、文化祭、体育祭、修学旅行、そしてコンクール。忙しいシーズンの到来ですが、私達にとっては、今までの自分をフルに発揮できるうれしい時です。例の如く創作（今年には部員だけの作品）に4人の一年、2人の二年で取りくんでいきます。このメンバーで、まわりの学校にどこまでついていけるかわかりませんが、精一杯ぶつかってみようつもりです。



豊中高女時代の夏の制服

益々御発展お祈り致して居ります。

玉谷光子 (豊女四期生)
創立四十周年を迎えるに当り心から嬉しく存じます。尚、堺市から豊中市に転居致しましたのでよろしく。

永井里佳 (豊女四期生)
いろいろとお世話さまです。祝賀行事にはぜひ参加したく思います。よろしく。

村上球恵 (豊女四期生)
転勤について速くに住み中々何のお役にも立たず、出席出来ずお世話にばかりなっています。

川野悦子 (豊女五期生)
はや創立四十周年を迎えるのですね。月日の流れの早さをしみじみ感じます。お世話様ですがよろしく御盛會をお祈り申し上げます。

中西綾子 (豊女八期生)
高女八期生ですが昭和二十二年一学期終了にて名古屋の女学校へ転校致しました。しかし同窓会にはいつも御案内を頂いたり卒業生と同様に扱って頂いている者です。

平田温子 (高校二期生)
早や四十周年を迎えられませう、夢のようでございます。

森 君子 (豊女八期生)
此の度母校創立四十周年祝賀行事の御案内を頂き高女八期生として感無量でございます。戦時中の二年間を含めた五年間の女学生時代がバツと目の前に現れ、微力ながら私も協力させていただきます。

鳴海靖子 (豊女三期生)
四十周年祝賀行事はどうかみり多い記念行事となりませう。陰乍ら祈っております。

特に私達八期生にとっては悲しくも学友の三十三回忌の慰霊のお勤めをささげて頂かねばならぬ年まわりになって居りささやかながら春の彼岸会には心ばかりのお祭りをいたしました。私が今こうして四十年のお祝いを持ち得た幸福をあらためてかみしめて居ります。

記念誌の件どうぞよろしくお願いいたします。

母校の益々の御発展を心より祈り上げますが共にB29の爆音を聞いた緑の校舎が無くなつたことや淋しゅうございます。

川島玲子 (高校八期生)
東京に来て八年になります。がこの通知がはじめてです。母校の近況等も知りたいと思っております。よろしくお祈り致します。

久瀬恭子 (高校二期生)
世話人の方々御苦勞様です。私は今五中で教職にありますが、その中に先輩・後輩が多いのにいまさらながらおどろいております。「ほむら野に立つ」はともよよい仕事をされた嬉しく思い、平和を教える時に役立てていつて忘れることのないようにしたいと思います。

久保田敏子 (高校十四期生)
母校の発展をお祈りいたしております。

鶴身一英 (高校二期生)
祝賀の行事が盛大に行なわれますよう御祈りいたします。私事ですがこの春同期の三島みつゑと結婚いたしました。

青山真理子 (高校二期生)
母校が新しく装いししかも四十周年を迎えることは卒業生としてとてもうれしく思います。

田村明子 (高校四期生)
創立四十周年お目出とうございます。

林 正宏 (高校四期生)
暑中御見舞申し上げます。こちらは多忙の中にも元気に頑張つて居りますのでご安心下さい。母校の四十周年行事大変結構です。

福田千恵子 (高校七期生)
四十周年お目出とうございます。

西田さやか (高校二十八期生)
桜塚高創立四十周年記念祝賀会がうまく行く様にならば幸いです。

名簿整備について
現在の尚和会名簿が誠に不備で、会員の皆様にも多大の御迷惑をお掛けいたしております。校内委員で努力を続けておりますが、何しろ卒業生が一万七千人であり、なかなか追いつけません。そこで各期毎の名簿を製作していただき、それを本部にお送り下さるようお願いいたします。なお、整備された期名簿は担当された方々の非常な御苦勞の上でできあがりました。厚く御礼申し上げます。

高五期 名倉みどり
母校・桜塚高校の創立40周年おめでとうございます。そして早いもので私が卒業してはや24年。今更乍らおどろいています。

校舎も新たに美しくなったとの事、拝見したいなと思いつつも御無沙汰に打ちずぎております。

在校生の落話の新聞、ニュース等切り抜いております。また、多くの先生方の御訃報にも接し、とても淋しく存じます。

久方ぶりに同級生等にお会いしました時など、とてもなつかしく学生時代に思いは戻つてまいります。母校、そして尚和会の御発展お祈り申し上げます。

豊女一期 安達タミ
桜塚高創立40周年お目出度うございます。

尚和会共々益々御発展の程お祈り致します。

多谷エイ子 (豊女一期生)
四十周年おめでとうございませう。

中村徳子 (豊女一期生)
暑さの中を母校のため色々とお世話様でございます。「四十周年祝賀会」が御盛會に挙行されます事を祈っております。

榎本英子 (豊女一期生)
お世話様になります。祝賀記念の式典等御盛會をお祈り申しております。

榎谷居子 (豊女二期生)
創立四十周年おめでとうございませう。

今後共益々の御発展を祈ります。

三ツ矢喜代子 (豊女三期生)
母校創立四十周年おめでとうございませう。記念行事等数々のもよおしお忙しい事でございます。お骨折りにただましまして有難うございます。

皆様御多忙の中お世話いただき心から感謝しております。何とぞ御自愛專一に御健康祈り上げます。

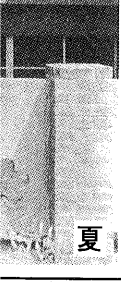
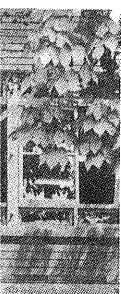
本出美代子 (豊女三期生)
「ほむら野に立つ」発行されました時、早速読ませて頂きました。私達三期生の卒業後、後輩の皆様の様子を始め、半月丹波の山奥へ動員で行つたり川西航空の工場で馴れぬせんばんを扱い、学校から工場に変わりました。空襲の直撃を免れました事等今は若き日を感慨無量で思い出しております。

吉沢幸子 (豊女三期生)
創立四十周年おめでとうございます。

フォークソング
研究部の現況

祝賀募金

四季



うございます。記念行事等数々のもよおしお忙しい事でございます。お骨折りのいただきまして有難うございます。

吉沢幸子(豊女三期生) 創立四十周年おめでとうございます。

す。戦時中の二年間を含めた五年間の女学生時代がパッと目の前に現れ、微力ながら私も協力させていただきま

福田千恵子(高校七期生) 四十周年お目出とうござい

西日かや(高校二十二期生) 桜塚高創立四十周年記念祝賀会がうまく行く様になら

の名簿は担当された方々の非常な御苦労の上でできあがりました。厚く御礼申し上げます。

フォークソング 研究部の現況

我がフォークソング研究部は、今年で十一年を迎えますが、まだ同好会もなかった頃には恵風苑で数人の音楽好きな人が集まり、ギターを奏で、楽しく歌っていたそうです。それが今では、現役はもちろんOBの方々は、「小さな音楽会」というコンサートを開いて活動を続けています。

現在のフォークソングの練習は、一週間のうち日曜日を全体練習は、クラブの全員の全員がひとつになつて、楽しく、又厳しく、いろいろな歌を歌っています。部外の人たちは、フォークソングという所はただ毎日楽しく歌っているだけだとお考えでしょうが、それは違います。グループ練習は、部員の気の合った者同士や同じ音楽の趣味を持つ者同士が、組んで、好きな音楽を個性豊かに發揮しています。

わたしたちのクラブ方針は、これらの中で全体練習を特に重視して、部員の和を大切に、人間的なつながりを自分たちの音楽向上と共に深めていきたいという気持ちで、毎日がんばっています。

そして、それらの日頃の成果をみなさんに聞いていただくために、文化祭はもちろん、新入生歓迎コンサートや新春・クリスマスコンサートなどを開いています。

祝賀募金 御協力を感謝 致します。

母校四十周年祝賀募金の趣旨に賛同された多くの会員の方々からの募金は、現在も尚和会へ御送り頂いておりますが、この様に多くの会員の皆様方の御協力を得ましたことに対し、役員一同厚く御礼申し上げます。

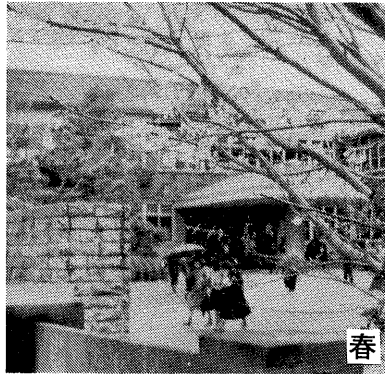
貴重な募金は、十一月九日に催される記念式典・祝賀行事の他、記念誌の発行のために利用させていただきます。その他、尚和会では、四十周年記念事業の一環として、一、名簿の発行 再建 以上二件の推進のため、さらに多くの会員の皆様方の御協力をお願い致したいと存じます。

そこで、趣旨に賛同された方で、もしまだ御送金をなさっていない方がございましたら、会報と同封の振替用紙を御使用頂ければ幸いかと存じます。また、当方の名簿の不備により、まだ募金趣意書、振替用紙が御手許に届いていない方がございましたら、尚和会に御連絡下さい。御送り致します。はなはだ不躱ではございますが、重ねて御協力下さいます様お願い致します。

校舎の四季



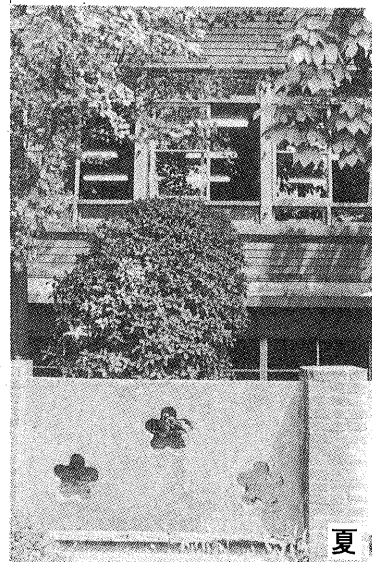
春



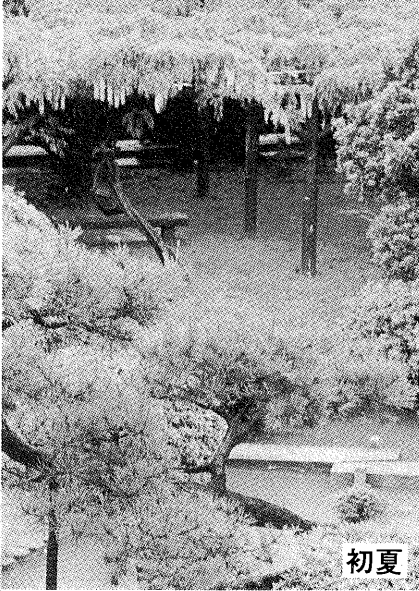
春



秋



夏



初夏



冬



現在の恩露園

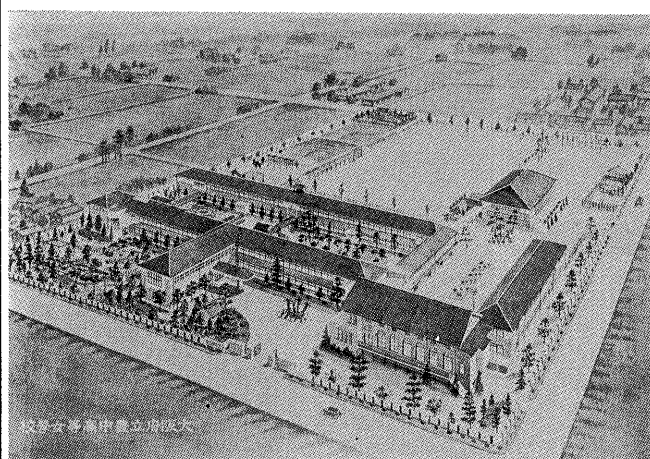


新校舎の正門玄関

野曾原先生提供の写真集(7頁・8頁)



若者は今何を思う? 旧校舎解体時

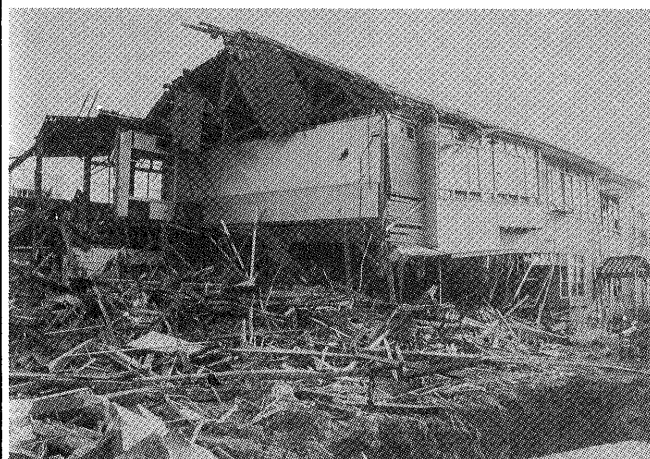


完成予想図のパス

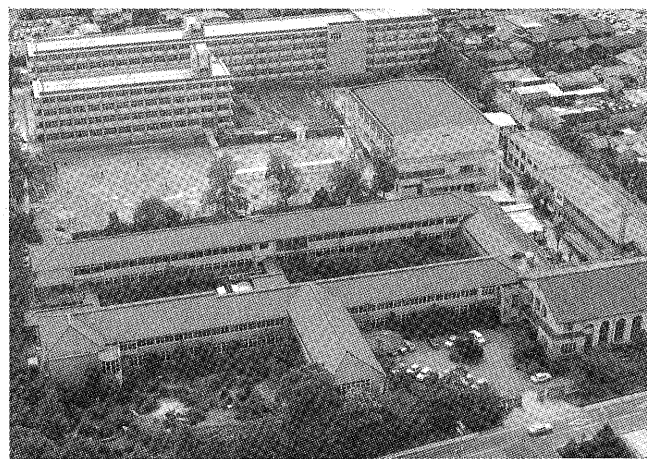


昭和14年通用門体育館附近

校舎の変遷



崩壊する旧校舎(52年8月)



対照的な新・旧両校舎(読売新聞提供)

ハンドボール部OG
青春の日 藤井妙子

「妙子! 早よロング打っ

はもちろん雨の日は体育館と
一日も休まず励んで来た仲間、
薄暗くなった運動場に、おい

も」をふかして持って来て下
になつての声援、それが「ド
ッ」とわいた時、相手ゴール
キーパーの真中上に「スポン



部全盛期

一」発足

演劇部
秋の香りを一足早く!
こんにちは! 現役部員6
人からの、ささやかなるメッ

今、玄関奥で、昔の恩露園のおもかげをしのばせてくれます。一口に六十年と云いますが、ましてはかえりみますと、色

徒数が減少し、職場の色々な制約をうけてともしれば朝氣を失いそうになるのを、先輩達の業かれた多くの業績を少

実は、若い同窓会委員の方との連絡もたえ、どうしようもないのです。どうかこの会報をお読みの後は、役員の方

の後の高校落語ブームの口火を切ったと自負しています。また、当時女性部員がその半数を占め、その中には実際

裕があったのに、そういう奇特な心持ち主は落研にはいらず、会計は常に火の車。そこで予算のおりる部にしようと

創立40周年記念募金状況

昭和52年10月10日現在

金二百九十五万二千八百六十

寄附を頂いた方の御芳名(敬称略) 順不同

- (高二期) 伊多波トシ
- (高三期) 三期会
- (豊女三) 三ツ矢喜代子(豊女五) 行岡伸子 (高三期) 小村典子
- (豊女一) 塚田京子 鴨居洋子 小野沢裕子 関美穂子 柳本英子 (豊女二) 亀本正子 (豊女三) 福田きみ子 堀野暉子 牛田勝子 本出美代子 蔦川千枝子 (豊女四) 玉谷光子 永井里佳 大西ヒロ子 (豊女六) 馬場文子 (高三期) 宮下忠憲 富士川やす子 中村千穂子 山元俊二 山本孟 西正治 磯村恒治 西村進 駒 勉 藤田日出子 近藤拓郎
- 菅生二郎 平尾啓一郎 長谷川春生 本田泰三 安積猛夫 赤崎 豊
- (高四期) 倉田卓雄 辻田二郎 梅田幸雄 林正宏 西川晴基 河本昌子 (高五期) 佐藤良子 田中憲三 前田憲男 (高七期) 関高明 倉田和明 (高八期) 森田司郎 (高九期) 青井幸久 (高十期) 久瀬恭子 (高十六期) 倉賀野勲 (高二十期) 木梨順生 (高二十二期) 坂本由利子 (高二十四期) 大西淳子
- (豊女一) 近藤英子 斎城美恵 清水夫美子 橋本磯(豊女二) 上脇真佐子 (豊女三) 池田きよね 梶田美智子(豊女四) 松井俊子 (豊女五) 駒井滋子 (豊女六) 藤木典子 (豊女七) 佐藤マサ子 (豊女八) 今井篤子 (高二期) 谷川康子 (高三期) 内海順夫 島村敏夫 森玲子 (高四期) 花井健光 河合秀泰 加藤弘子 (高五期) 菅原素子 石野喜代子(高七期) 中野直行 (高九期) 村瀬常生 森喜代子 (高二期) 前田有次郎 (高二十期) 坂田留美子 (高二十二期) 花野美知代 (定時制) 片山勝重
- 五千円 (豊女一) 吉里知恵子 中村徳子 (豊女三) 山口義子 吉里泰子 (豊女四) 上山満智子 (豊女六) 近藤ひさ江 (豊女八) 西田陽子 (高一) 期 吉田美智子 (高四期) 田村明子 (高七期) 福田千恵子 (高九期) 吉田友子 (高十二期) 吉田友子 四千円 (豊女一) 酒井嘉寿子 松本衣 平松都美子 春田甲子 藤原美代子 下河内信子(豊女二) 大河貞子 宮本喜久子
- 樽谷君子 (豊女三) 松尾郁子 水谷美幸 吉沢幸子 滝せつ子 (豊女四) 鳴川道子 前田康子 木本裕子 (豊女五) 佐藤由紀子 羽間美佐子 (豊女六) 鷺見まや子 高見邦子 森繁子 西村加代子 (豊女七) 湯浅敦子 河内洋子 (豊女八) 森田光子 大岡いく子 国方寿美子 石毛納子 池田幸子 (高二期) 阪長敏子 (高三期) 河端治上田茉莉子 阪倉綾 松原喜代子 亀井美智子 高木慶子 治村昌子 中村健児 末久史郎 上島康弘 (高四期) 円井忠雄 円井道代 須賀野朝子 岡本牧子 横道満子 池崎邦夫 木村恵一 北山昌弘 雀部信弘 (高五期) 岸本喜久子 盛野安子 三浦節子 (高七期) 大西千枝子 (高十二期) 小野常芳 清位史子 (高十三期) 中川慶子 菅原洋子 (高十五期) 綱沢肇 (高十八期) 大原孝彦 (高十九期) 町田糸子 (高十九期) 圓井素成 池田吉清(高二十一期) 村上幸裕 山岡敏子 (高二十二期) 近藤孝夫 (高二十三期) 中田正隆 後藤保二 (高二十八期) 久保明子 (高二十九期) 渡辺雅昭 (定時制) 藪内吾吾 尾作政 (期不明) 玉木園枝 水上順彦 杉本清 池内享三千元 (豊女四) 佐藤恭子 (高四期) 岸田玲子 (高七期) 奥野英子 二千元 (豊女一) 末藤敏子 阿曾久子 多谷エイ子 吉本純子
- 植松喜子 横谷春子 丹田寧子 福田せつ 松井信子 滝沢淑子 東野千鶴子 内藤純子 本多美智子 安原愛子 北垣富子 横山初子 正井澄子 高見沢綾子 石田美津子 森裕子 中島文子 信開寿美子 岡本千代子 中西明子 前田千寿子 安達タミ 前田喜代子 藤田初枝 芝喜美子 樋口由貴恵 二宮愛江 川原由多子 福西君子 久保田雅子 岡田小竹生 中山光子 矢野鈴子 越水ユリ 安達輝子 児玉愛子 入江量子 平尾和子 待場整子 立石房根本君子 入井祥恵 小野田鶴子 関設子 山下寛子 藤沢千鶴子 梅垣秀子 牧田澄子 野口初子 高橋糸子 藤本一子 木村千鶴子(豊女二) 高田豊子 阪上美智子 桐口清子 高橋冬代子 山口恭子 中山やよひ 雲出節好 植村裕子 藤井寿子 堀田清子 岡田良子 光信信子 有米博子 池田佳子 松尾好子 藤本真理子 西岡美智子 橋口純子 川副英子 森田路子 神保和子 松本三三子 植野順子 小林初枝 村田幸子 (豊女三) 村西良子 和田啓井上百合子 高橋芳子 松溪彰子 田中いく子 野田滋子 吉村ナツ子 武田昌恵 古川佳子 中井ちゑ子 福井穂子 山田和子 山口愛子 安松和子 中村道子 吉野良子 鳴海靖子 岩淵はま子 岩田美和子 武田和子 渡間千里 石川孝子 大島重次 川島才金沢瑳江子 高木志摩子 竹下幸子 佐藤春 山庄司貞子
- 西原成子 武田貞子 (豊女四) 馬場恵美子 宮本弘子 河村令子 梶山季子 角山照子 南園 守分康子 浜田尚代 稲益智恵子 桑原茂子 片岡和佐子 田内弥生 佐藤芳子 岡林みどり 若槻静子 井上和子 酒井百合子 津田静子 上野多慶子 林美沙子 村上球恵 津川敏子 勝野瑤子 広谷晴子 河合貞子 合原正枝 岩田洋子 西田恭子 佐藤有紀子 徳力保子 山元加寿子 田畑照野 安松和子 渡辺順 藤原秀子 加藤愛子 山本千鶴子 広瀬章子 大江悦子 富樫弥生 柴田千代枝 三谷良 (豊女五) 井上敏子 富田三枝 津田久子 菅原秋子 森田隆子 河辺富士子 中村公子 奥井信子 疋田愛子 内藤葉子 長沼郁子 藤本芳子 原博子 有岡美代子 矢野愛子 杉山玉緒 野口恵美子 鳩谷弘子 川野悦子 奥野信美 長岡郁江 室谷安佐子 加藤玲子 木村菊恵 徳丸周子 友松長子 辻川玲子 森田安子 谷村美智子 小沢典子 弘中敏子 太田和子 金ヶ江敏子 山田恵美子 荒木真智子 村瀬方世 真野都志子 比叡寿子 小林綾子 阪本陽子 徳田八重子 西川良子 安原佐紀子 藤平レイ子 田中典子 (豊女六) 栄永頼子 中原千代子 次田小珠恵 渡部和 米田日枝 仁科良子 川口早苗 赤沢満子 森妙子 佐藤盈子 小田郁子 渡辺慧子 武田泰代 喜多靖子 沢崎洋子 古家玲子 佐多良子 島田陽子 岩宮迪子
- 郡千代 毛利克子 須藤和子 前沢智恵子 長山千加 指尾千枝 堀川隆子 山中暢子 上野やよい 早野久美子 佐渡章子 瀬戸川達子 長尾正子 岡村博子 許斐浩子 遠藤郁子 大森英子 青木操子 園田昭子 池内京子 (豊女七期) 牧千保 鳥居幸子 楠原邦子 野崎百合子 石田マリ子 蔵所英子 矢萩陸子 西羅千里 芝山敬子 樋口治美 伊達公子 山西信子 伊関美喜子 清水喜美子 崇谷邦子 郡綾子 富田恭子 富永紀代子 和田英子 森川照子 市川淑子 笹部裕子 中川幸子 黒河内順子 田中寛子 原和子 土肥愛子 八谷洋子 大和美津子 間嶋紀子 丘本節子 紫合ツネ子 安井初美 新淑子 長田昭子 小川峯子 橋田輝子 星野清子 沼田栄美子 細川富美恵(豊女八期) 駒エミ子 目次正子 塩見恭子 橋本育代 石原綾子 平田温子 前田暢子 粉川洋子 藤田静子 上田和子 若林直子 橋本伶子 森君子 阿部久子 前田邦子 大久保緑 小島京子 吉井町子 大野富士子 駒井香英子 矢口里子 鶴飼律子 岸本賀久子 風早裕代 横山文代 滝本操三木幸子 沼田英子 信岡重子 高橋薫子 桑木千鶴子 山岡 和子 井上恒子 布施靖子 荒井照子 (高一期) 篠宮照 平野敏代 生沢金乃 佐藤悦子 永妙子 小笠原公子 (高二期) 乗竹弘子 岡本敏子 田中由子 野村弥栄子 金田方子 (高三期) 岡

田昌子 滝口清子 今井和子 奥山千里 稲葉みどり 塩山 勝文 増田佐久子 辰巳加陽 子 森林和子 榎合久美子 大隅康子 依藤絹枝 永井淑 子 野田寛子 吉富良雄 日 野時男 喜井美根子 友田洋 子 小川裕子 宮本須賀子 原田祥子 近藤喬 宗倉節子 川村美紗子 竹中牙子 松本 正子 山本美智子 楠守 森 啓子 井ノ口美美代 石原一 良 島津章子 田中清 岩橋 久美子 山淵統 松本國照 三川二郎 和田好子 山脇千 代子 中西京子 吉井一夫 児玉博子 有井幹三 大田稔 子 山崎喜子 勝間田嘉和 野口迪子 萩原泰子 村本き み子 西村真喜子 北村洋子 関光子 藤林咲子 近田正彰 阪本富美子 山東速夫 (高 四期) 徳原泰子 上島圭子 中野道子 佛原寧子 館勢子 古島三千代 森本節子 中西 慶子 兵頭恵美子 速形孝子 小川尚子 増田明子 則松芳 子 阿部経子 木下忠行 伊 藤初子 中村利治 三輪三郎 釜池葉子 中島妙子 白銀安 紀子 深江佐恵子 木下成子 根岸郁子 土屋仁 岩本真治 本宮八重子 生島英子 高橋 陽子 福田節子 塩野美知子 前原崇子 千原一元 木村信 子 福岡美登利 中川恭子 中村陽子 北島孝紹 佐原洋 子 木村美和子 岸本輝子 服部育子 近藤栄子 香取貞 子 内田章子 大田昌子 林 百合子 浦靖子 大空明子 川尾勝美 (高五期) 山本璋	子 永田俊夫 井上日出子 吉田美津子 三木有子 橋本 弘子 松尾ミナミ 亀谷紀枝 浅田靖子 龜井時男 籠晴子 島中康伸 清水巖 丸陸子 坂口照子 宮口一郎 三井峰 子 石井文敏 (高六期) 勝 田健三 (高七期) 永田悦子 小谷寿子 遠山恵子 佐野貞 子 堀敬之助 山脇弘子 紙 谷君子 桜井迪栄 森川淑子 加藤和江 峰山隆一 有光重 文 迫田雅子 紀伊滋子 古 矢健夫 (高八期) 新内明子 下妻克子 宮木晴子 安岡瑛 子 藤本芳子 野曾原宏道 川島玲子 辻久美子 粉川佳 子 橋本邦子 富田康子 大 谷旬子 柏原光子 川村啓子 中桐実子 黒田トシ子 藤井 陸子 松倉博 垣岡和子 中 村正子 (高九期) 伊藤千晶 上野由美 小出啓子 平松章 代 (高十期) 友澤富紀代 高橋雅子 大喜多道子 川上 千鶴子 富岡直子 大槻美代 子 村上晴子 浅野節子 物 部慶子 田沼翠 小菅美恵 子 石飛紀久子 (高十一期) 中門喜久江 本田英紀 小淵 祥子 吉松真知子 柏原昌弘 (高十二期) 横尾秀次郎 橋 本克子 大西善子 山口邦子 菅野千代子 吉本清志 山口 悦子 中辻八栄子 橋高重久 木田きぬ子 (高十三期) 梶 田和子 中野康夫 河辺司郎 長尾雅子 吉田美代子 奥千 鶴 皆川美淑子 宇根山素子 (高十四期) 太西真司 星野 祐子 久保田敏子 金井伴子 南寿子 石田安孝 光谷富美 子 入江良征 安田忠昭 西	田善次 白川恵子 山岡ツヤ 子 裏辻康秀 (高十五期) 橋 大島光昭 上山貞剛 吉川京 子 則枝清子 丸田菊代 平 林敏子 長谷川洋司 四位好 子 碓石栄子 秀平政信 (高 十六期) 山本武也 浦谷さよ 渡辺源治 渡辺沙洪子 進藤 律子 小石雅也 中村彰宏 桑原喜一郎 渡部剛一 中島 洋子 堀内章利 太田勝也 境公子 木下道雄 林紀子 (高十七期) 木村紀子 松尾 敏明 田中幸子 山田裕 (高 十八期) 越智義行 井上隆夫 村田勝 野瀬邦憲 大城裕二 竹内誠 中村智子 板原順子 豊田博敏 北川悟司 田村好 雄 古川正明 中川和子 金 指弘 藤原賢三 (高十九期) 山本栄子 高見洋三 松島映 子 宮崎恵子 徳川美春 田 中美知子 石原保子 青山由 子 高松美樹子 浜口広史 沖中明子 阪口愛子 坂田太 郎 野曾原澄夫 久保田文男 富田民子 中谷博 飯田修治 山田俊代 清水美恵子 井上 秀美 (高二十期) 江上博文 堀節子 竹本敬一 中倉峰香 菅又恵子 田尻節子 乾悦子 神杉紀代子 山西希代子 黒 田信高 萩原悦子 (高二十 一期) 海老原法雄 三宅則良 栗栖恭子 渡辺勝 阪本一男 藤山照雄 正木義夫 松原ま り子 佐藤真代 高松美枝子 平井陽子 小梶喜美子 吉田 茂利 富永操 西脇幹子 山 田洋子 村田秀二 小泉はる み 信貴鈴子 (高二十二期) 中里裕美 仲岡清 西木ひと み 長谷川和代 荒木次男	田中恵子 西田博司 高山順 子 井上洋子 荒木祥子 坂 戸恵美子 鶴身一英 村田み すず 石水文世 垣内陽子 田淵順也 佐藤明子 弓削和 子 藤井覺田(洋次) 大庭ミ ナ子 (高二十三期) 志賀稜 池永道子 川村光生 伊根と も子 土肥誠 平林勝 吉村 浩 富澤一夫 金井弥生 荻 田洋子 近藤ひな子 吉田加 恵子 滝野恵子 藤典子 竹 内修造 田辺桂子 青山真理 子 赤木陽子 金田章子 丸 山竹司 吉田淳子 国分滋夫 笹部信二 奥谷幸子 栄健次 福井麻貴夫 川谷信行 篠原 洋子 (高二十四期) 福永玲 子 米田直史 杵川洋一 稲 葉和美 氏家敏子 餅田維久 子 中黒正明 新子悟 田村 美樹 須磨良明 塩崎啓子 多田洋一 脇本至津子 丸島 彰 山本勝勝 長崎正俊 多 治美左智子 間名啓之 亀井 朋子 西橋恵美子 北中亮一 紀仲由隆 太田康彦 松本福 藏 (高二十五期) 棚瀬寿子 望月万里子 伊藤恵子 金川 一郎 吉岡恵二 若松祥子 加藤巖 船越秀久 中務幸彦 井上健 野桜玲子 福岡和貴 高橋恭子 佐野文樹 落合章 浩 田淵勇一 岩崎尚雄 伊 豆章 福井哲 武田義彦 荒 木理恵子 (高二十六期) 坂 本三樹子 上田淳子 中北義 久 今枝弓子 高垣喜代美 後藤祥仁 長谷田和男 三浦 陽子 井関一夫 八田雅章 乾弘志 横山富久 沢ひろみ 渡辺佳代子 三反畑保 八木 悟 尾島多佳子 木村万里子	木村典子 武林治朗 植田義 恵 水本澄江 (高二十七期) 石野妃呂子 大石由美子 釘 抜三枝子 板原京子 後田仁 池田邦彦 宮崎真理 野口和 弘 長綱則子 阪本悦子 田 中敏彦 野尻修 川地繁雄 宅和哲郎 西川克英 池田み ち子 杉田公子 (高二十八 期) 関美恵子 玉置秀司 中 山静香 河部方子 秋田孝文 西田さやか 吉本謙二 森山 忠雄 伊豆朋子 古家順子 西村佳代子 榎本巖 中田伊 英 榎元久美子 山本剛由 大元充 桑木美恵 安井賢司 星野修 藤森仁嗣 持元宏 中井俊次 林明弘 森村恵介 奥野泰志 中内勢 石城はる み 小笠原純二 武田のり子 里平一彦 西岡利枝子 土肥 章子 (高二十九期) 多田直 行 森野義高 杉本佳永子 小池正一 松田真一 谷口和 美 式見晴美 鈴木美幸 高 橋裕子 今西貴子 竹島昌弘 志賀左知子 角郁雄 高橋恵 美子 石原知恵子 中西明彦 橋本淳 岡本利康 上島俊一 山本理加 西沢光一 佐々木 弓枝 中井重光 二見彰一 浜田康弘 川嶋泰之 小谷正 明 平原優子 井上宏 中井 真人 井上雅代 野沢敬次 山口真紀子 藪谷桂子 石尾 成伸 竹内和彦 内村ひとみ 藤重元子 池田奈利子 馬場 博 小田進史 安井一仁 木 戸良 村瀬善光 星野秀幸 (定時制) 中川喜美子 大畑 文雄 辻本順子 府上恵二 吉本喜代子 福島和二郎 中 務誠一 古川弘 西村乙代	村井逸子 鷺島義一 江守十 三郎 (定時制五) 今中孝 (定時制八) 門弥生 (定時 制二六) 小谷寿慶 門正義 青屋美鶴 (期不明) 村上和 子 平山美枝子 橋高敏之 藤塚修平 尾崎通昭 萩野和 臣 山本雅敏 村田武之 上 林佳夫 米家良司 小野宣治 馬坂哲平 大城芳忠 太田繁 実 本田綱一 (その他) 阿 部正
---	---	---	---	---	---

鐘のひびき

待望の男子部員も

茶道部師範 長谷川宗風

つて年中行事は終わります。又、数年前OB会が発足し、いろいろと後輩の力添えをして下さいます。茶道部は二十

でき、立派な和室を造って頂いたことを感謝し、できるだけ大切に使用して美しい姿まで、後輩に譲り渡してゆこ

定時制の近況をお知らせしよう。まず山本弘校長先

らくお世話になったわけで、古い回の卒業生でも知らない人はないと思いますが、このたび御退職になりました。肥

会執行部室、家庭科教室、商業教室、視聴覚教室等の新しい立派な部屋を昨年末から使用して楽しい学校生活が展開

ているわけでは、はりきり屋の若い先生も多いのでその成果も年毎にあがっているものと確信しております。

し上げております。現在は非常勤講師として週四日間出勤致しております。二十九年間という長い間に

末筆ながら皆様の御自愛と御発展とをお祈りいたしまして、擲筆いたします。

期) 川口起美雄
 四千円
 (豊女一) 明壁綾子 藤田澄子 (豊女三) 安居和江 (豊女五) 傍士悦子 (豊女七・昭20転出) 吉久保美都里 (豊女七) 黒田長子 竹井長子 (豊女八) 西村博子 中村陽子 村中欣子 (高三期) 菅原隆 辻川冷子 (高四期) 原茂雄 稲井史子 山田紀子 上野有紀 (高八期) 三木礼介 (高十一期) 坂井岑嘉 (高十三期) 大津和子 (高十七期) 大津栄雄 (高二十二期) 大田勝久 山田和保 (高二九期) 大塚恭子 三千元
 (高十期) 三和弘子
 (豊女一) 根本規子 横矢美津 富田陸美 岡村祥 蛭子美恵子 (豊女二) 力身康子 高橋洋子 中之蘭久美子 和井田俊子 (豊女三) 中尾和子 藤井根子 伊庭徳 藤本正子 土井美智子 古川寿美江 蔭山静子 (豊女五) 宮里絢子 西村悠子 安藤光武田祥代 庵原輝子 大原美子 武田昭子 馬淵千代 藤本久子 (豊女六) 森口陸子 岡田登美子 下村和子 野田美代子 吉田紀美子 深浦郁子 八田久美子 (豊女七) 池永敏江 木村祥子 平井郁子 森山秀子 杉本 子 棟近文字 源城素子 阪井敏子 白井艶子 竹中千枝 吉岡純子 (豊女八) 松浦支津恵 安部喜久子 山本華子 窪田治子 宮田雅子 川端安世 西田満千子 (高三期) 高井茂

寺門良子 辻村靖子 宮崎嘉重郎 立石喜久子 春木和枝 上元繁 島田操 岡網泰子 諏訪和正 小前矩子 木村幸子 戎祐子 本位田とよ 上野弘江 紫富田美知子 (高四期) 石井千賀子 小林郁子 片岡利哉 岩波栄子 円尾恵子 西村澄子 笠原淑子 奥田閑子 山田桂子 川上纏子 小口百子 内藤康子 枝松美重子 (高五期) 石川博子 中辻寿美子 吉田佐知子 名倉みどり 村上寿子 (高六期) 北まち子 板倉英世 (高七期) 山崎弘行 八田照子 小松良子 越田美智子 (高八期) 野口雅津子 梶浦令子 広川富士子 田中喜久枝 永田千穂 影山好幸 浜村恵子 川名満江 (高九期) 鶴田紀子 高崎千賀子 峯村明子 (高十期) 佐郷一子 (高十一期) 木下紀子 岡部昌子 熊井けい子 (高十三期) 田中俣津子 岩崎佳代子 (高十四期) 坂田文江 松村祐治 池田順子 上林勝子 (高十五期) 下村嘉代子 (高十六期) 不可三隆夫 田原淳子 (高十八期) 藤井文子 (高二十期) 古谷いつ子 本村由利子 (高二十二期) 乾英樹 竹内咲代 (高二十三期) 岡田圭子 (高二十三期) 奥享長尾久美子 浅川和子 (高二四期) 岡崎好秀 福島秀男 松下叔夫 (高二十五期) 田村尚子 樋上洋子 木代目浩一 松村玲子 丸山恵子 竹森真夫 島田正弘 千葉素子 小嶋寛子 (高二十六期) 島田靖久 苛原真真理子 興樞る

り子 (高二十七期) 畑山博子 木下和久 八木智子 苛原真二 奥村信一 (高二十八期) 荒井恵子 大森達也 浜田ますみ 山本悦子 北元章子 (高二十九期) 中條憲昭 金光公子 前海恭子 (定四期) 田中久雄 加藤武司 (定五期) 馬場恵子 紅山英世 (定八期) 有田一郎 (定九期) 森山三枝 (定二十六期) 中前妙子 (期不明) 渋谷和代
 二万円
 (高三期) 喜多岡敏之
 一万円
 (豊女五) 広実輝子 中川和子 堀井千代子 (豊女六) 岩井冴子 住山弘子 太田垣準子 藤井好子 (豊女八) 中西綾子 久野慶子 (高三期) 樋口嘉康 (高十八期) 西山正俊 四千円
 (豊女八) 上田美知子 江見香苗 (高四期) 黒根宗樹 (高十七期) 稗田和子 (高二十三期) 和田正弘 二千円
 (豊女五) 山田民恵 斉藤令子 (豊女七) 近藤博子 田中睦美 小暮敬子 勝本昭子 佐々木悦子 出口珠子 安井道子 中川美智子 古川貞子 三宅悦子 (高三期) 江坂義子 植田安寛 (高五期) 梁木圭子 (高八期) 斉藤桂子 佐坂長子 (高十期) 深城元子 (高二十二期) 田村広子 (高二十八期) 荒川恵子 (定十期) 上田宏 (期不明) 中西

教職員人事異動
 (全日制)
 大阪大学理学部 大森清子 (教務事務補助員) 池田高校より
 大阪大学理学部 山口昭典事務長 51年1月 東大阪養護学校 (新設) 事務長 51年4月 府立布施高校 (全日制) へ 府立布施高校 (全日制) へ 府立布施高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ
 (定時制)
 大阪大学理学部 大森清子 (教務事務補助員) 池田高校より
 大阪大学理学部 山本弘校長 51年3月 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ
 大阪大学理学部 山本弘校長 51年4月 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ 府立東百舌鳥高校 (全日制) へ

母校に赴任して
 高23期 後藤保二
 本年度より母校国語科に勤務することになりましたので、一言御挨拶申し上げます。私、大学四年の時母校で教育実習をさせていただきましたが、その年の大阪府の教員採用試験に失敗し、卒業を目前にして途方にくれておりましたところ、母校から非常勤講師としてのお誘いを受け、講師を勤めながら再度採用試験を受けました。が、私の不徳のいたすところで、せっかくの先生方の激励にもお応えすることができず、また失敗しました。この時私は教職をあきらめようかとも思いましたが、こんな私に、もう一年講師の仕事をお与え下さって、私もこれが最後と思いい、昨年試験を受けましたところ、全く幸運にも合格でき、しかも母校に赴任することができました。これもひとえに母校の諸先生方の暖かい激励と御援助の賜物と感謝しております。こんな訳で、私にとって、母校に対する思いは格別のものがあります。最後に、まことに至らぬ所の多々ある私ではございますが、椋塚の卒業生として恥じないよう、自分と与えられた使命を全うし、母校椋塚と尚和会の更なる発展のため、全力を尽くすことを誓って、私の挨拶といたします。

発行所 尚和会
 (桜塚高等学校同窓会)
 発行責任者 木村益子

五十二年十一月九日 (水)

昭和51年度決算

(自昭和 51年 5月 1日)
 (至 昭和52年 4月 30日)

収入総額 1,273,957円
 支出総額 448,600円

	科 目	予 算 額	決 算 額
収 入	入 会 金	1,042,000	1,042,000
	雑 収 入	80,000	43,528
	前 期 繰 越 金	188,429	188,429
	合 計	1,310,429	1,273,957
支 出	事 務 費	100,000	62,920
	慶 弔 費	10,000	0
	会 館 維 持 費	10,000	0
	卒 業 生 記 念 品 代	70,000	58,650
	東 京 支 部 援 助 費	20,000	20,000
	会 報 発 行 費	700,000	0
	総 会 費	150,000	145,300
	積 立 金	100,000	100,000
	名 簿 整 理 事 業 費	100,000	53,550
	予 備 費	50,429	8,180
	後 期 繰 越 金	—	825,357
	合 計	1,310,429	1,273,957

昭和52年度予算

(自 昭和52年 5月 1日)
 (至 昭和53年 4月 30日)

	科 目	金 額
収 入	入 会 金	994,000
	雑 収 入	0
	前 期 繰 越 金	825,357
	合 計	1,819,357
支 出	事 務 費	100,000
	慶 弔 費	10,000
	会 館 維 持 費	10,000
	卒 業 生 記 念 品 代	80,000
	東 京 支 部 援 助 費	20,000
	会 報 発 行 費	800,000
	総 会 費	150,000
	積 立 金	100,000
	名 簿 整 理 事 業 費	100,000
	予 備 費	449,357
	合 計	1,819,357

特別会計

(昭和52年 4月 現在)

	前期繰越金	収 入	支 出	後期繰越金
尚 和 会 積 立 金	800,000	100,000	0	900,000
名 簿 発 行 積 立 金	344,829	0	0	344,829
会 館 維 持 積 立 金	163,550	0	0	163,550
合 計	1,308,379	100,000	0	1,408,379

祝 桜塚高校創立40周年

御結婚・御入学・受勲受賞等あらゆる機会に
 創業50年の信頼と技術のお写真を



豊中市末広町 1-1-28 (豊中駅西側) 〒560
 TEL 841-7771 (代)

グラム

容
 による
 (米子さん)
 いて)
 女の話
 んの
 究部

コピーにて)